

標準的な運賃を収受するために

「トラック産業の将来を考える懇話会・近畿」は、昨年12月17日、標準的な運賃収受、燃料高騰問題で幹事8名が参加し、近畿運輸局へ要請行動をおこないました。後藤浩之（貨物課長）から要請した内容への回答がありました。後藤氏は、「届け出率が未だに過半数に届いていないのは、荷主の理解と周知されていないことが予測され、今後も周知活動を行い、また、2月には経団連と協賛でセミナーを開催していく」と方向を示されました。

しかし、燃料高騰で経営が圧迫し、届け出率が50%以上になるまで待てないので、「経済団体に標準的な運賃と燃料高騰分を含めた適正な運賃収受についてご理解とご協力をお願いし、近畿経済産業局は荷主団体を管轄している役

所なので周知してくださいと通知をしました。近畿農政局も荷主関係へリーフレットを配布しています」と回答がありました。

私たち「懇話会」は、この標準的な運賃の告示は、国と行政が2



018年に全会一致で可決された内容なので、必ず実のある運賃収受をするために努力義務でなく、時限立法期日の2024年4月までに法制化できるように要請しました。

労働者の賃金を引き上げないと経済も回らないということは運輸局も理解しているようだが、行政として荷主に直接、交渉できない立場であるので、事業者の後押しをしっかりと組んでもらいたい。

また、燃料高騰についても危機的な問題であり、政府はガソリン最大5円分補助金を出すが、本来なら燃料サーチャージの導入の義務化、もしくは軽油取引税の凍結、160円以上で減免するなど、価格そのものを抑えて安定させなければいけない。

原油高騰の問題は物流だけでなく、食料品や灯油などの生活必需品の価格上昇で家計を苦しめるので、政府は早急に対処しなければいけない。

(執行部 陣内 恒治)

だんけつ



歴史を学び新時代へ繋ぐ

執行委員長 小林 勝彦

新年おめでとうございます。全港湾大阪支部組合員とご家族の皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。

迎えた2022年は寅年(壬寅)です。虎は、毛皮の模様から前身が夜空に輝く星と考えられていた存在。『決断力と才知』の象徴としての意味もあり、縁起物としても親しまれています。

寅年は「成長」や「始まり」の年と言われ、情勢ではコロナ禍で生まれた「ウーバーイーツ(働き方については課題が残るが)」などの飲食配送業、会議や講義などの「リモート」など新しい取り組みの「始まり」がありました。コロナ禍で苦しみ耐え抜いた2年間を「成長」へと繋げていきたいものです。

私たち大阪支部にとって昨年は、「耐え忍ぶ年」でした。2年越しの新型コロナウイルス感染対応に追われる中、統合企業や再編企業への対応や対策。さらには、通年課題となっている組織拡大への取り組み、そして、法廷闘争や労働委闘争が続いている争議対策など

苦しい状況が山積でした。

そんな状況の中でも、一步前進できたのは2年余り闘ってきた樽本機工闘争が府労委から「組合側完全勝利命令」を受け、中労委で「和解」となり終結できたことです。

さらに、新しく「大阪メトロ分会」が昨年8月2日に結成されました。4名の分会員は全港湾でも珍しい日本労働組合総連合会(連合)加盟の「大阪交通労働組合(大交)」を脱退して我々の仲間となりました。連合は「労働条件・職場環境の維持改善」といった職場レベルでの課題はもちろん、労働法制、社会保障制度、経済政策など、様々な社会的問題も解決しています。常に働く人や生活者に寄りそう」と唱っていますが、巷では「企業のための労働組合」と揶揄され、馴れ合い交渉は有名です。

彼らは組合員の意見や願いが組織内で反映されず、企業との交渉に生かされない事への憤りが、全港湾(大阪支部)への組織移行となりました。

一方、社会情勢を見てみると昨年10月の第49回衆院選は野党共闘

(立民、共産、社民、れいわ)と与党(自民、公明)との戦いになり、結果、与党の圧勝(見方は色々有るが)となりました。この結果は、支部にとって支援している政党や個人の落選は、港湾・車両の政策面において非常に厳しい結果となりました。

また、維新の躍進も大阪を拠点とする支部にとっては厄介になるのは事実であります。あらゆる政治運動も従来の与党に維新・国民が加わり悪法の改憲に拍車がかかり「戦争ができる国造り」にさらなる勢いが増す事に危惧しなければなりません。

結びに、全港湾大阪支部は過去先輩たちが闘い勝ち取ってきた「南港・桜島刑事弾圧闘争(港のとまった日)」や「フェリー闘争」などの『歴史を学び新時代へ繋ぐ』のために、組合員一人ひとりを大切に、そして互いに支え合える組織として、地域の仲間と共に平和と労働組合としての権利を守る闘いを団結の力で勝ち抜くことを軸に、この新しい年がよい年でありますよう心から祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。

おすすめ図書

めくる手に広がる世界深まる思考

人新世の「資本論」 著：斎藤 幸平



昨年12月7日の分会代表委員会で吉本副委員長から本書の紹介がありました。完読した私なりの視線で、この機関紙「だんけつ」でも紹介し、おすすめします。

「だんけつ」356号や12月23日の分会代表委員会で、私は「原発の危険性」を話しましたが、本書では原子力にまつわる「秘匿性」「希少性」など政治的立ち位置か

ら見解が述べられています。

その他にも、私たちの生活様式が他国に及ぼす「環境破壊からの温暖化現象」を詳しく説明されています。

急速に進む地球温暖化と資本主義の関係性、資本主義からの脱却に向け、今後私たち労働組合の役割や使命、目指すべき方向性が記されています。

私は本書を読んで、これからの労働組合のあり方をはじめ、みなさんと知識を共有し、考えていければと思います。

(執行部 佐久原 智彦)



港湾部会2022春闘討論集会 2021.12.17



車両部会2022春闘討論集会 2021.12.19

2022春闘 始動